

Q&A 単元冒頭のリード文について

Q 国語教科書の各単元の冒頭にリード文がありますが、その効果的な使い方を教えてください。



教科書三年下 4～5ページ

全体として学習の見通しがもてるようになっていきます。

このリード文は、教材の後にある学習ページの設問『ちいちゃんのかげおくり』を読んでいる場面が心にのこりましたか。』に対応しています。さらに、「場面の様子を想うつしながら読む」ための方法は「学習の窓」＝「言葉の使い方に気をつけて読む」に示されています。

このように、リード文は、学習ページや「学習の窓」とも結び付いて、子どもたちがその単元で主体的に言葉の力をつけることができるように作られています。

「話すこと・聞くこと」や「書くこと」の単元のリード文は、目的意識を高めて、具体的な活動を提示する内容になっています。

単元冒頭のリード文の効果的な使い方としては、先ほどの三年下・第一単元を例に取れば、教材に入る前に、リード文だけを子どもたちに読ませて、「かげおくりって知ってる？」などと内容に興味をもたせたり、疑問をもたせたりして、それを解決するという目的をもって教材の読みに入ることが考えられます。このような

A 各単元の冒頭にあるリード文は、子どもたちが見通しをもち、興味・関心をもって、その単元の学習に臨むことができるようにという意図から設定されているものです。

例えば、「読むこと」の単元であれば、子どもたちが教材を読む前にその物語や説明文の話題について関心をもてるような内容を示し、また、どんなことに注意して読めば単元のねらいに即した読み方ができるかのヒントを与えるようになっていきます。さらに、ここではどんな活動をするかについても提示されています。

三年下・第一単元で、「場面の様子を想うつしながら読む」のリード文を見てみましょう。
・かげおくり」は、どんな遊びでしょう。
・ちいちゃんは、どんな「かげおくり」をするのでしょうか。

・場面の様子を想うつしながら読み、感じたことを話し合しましょう。

の三つの文からできています。第一文・第二文では、内容にふれて、子どもたちの興味・関心を促したうえで読みの方向を示し、第三文では、何を学習するのかにふれて活動を提示し、

扱いによって、子どもたちは漫然とした読みではなく、目的をもった読みをすることができます。また、先生が小説を読んだときにどのように場面を想像したかななどの体験を子どもたちに話してもよいでしょう。子どもたちと教材とをどのように出会わせるかが大切です。その際にリード文を活用していただければと思います。

また、このリード文をもとに、子どもたちに自由に発言させるなどして、教材に対する自分のイメージをふくらませ、自分の学習課題をもつようにさせると、学習内容はさらに豊かになるのではないのでしょうか。

「教科書ここが知りたい」は、国語編集部によく寄せられる疑問・質問にお答えする「コーナー」です。「こんなことを取り上げてほしい。」などのご意見を広報課までお寄せください。 FAX03-3493-5483
なお、光村ホームページも合わせてご覧ください。

<http://www.mitsumura-tosho.co.jp>
E-mail: koho@mitsumura-tosho.co.jp